



## 5月 ひなぎくだより

最近は、水遊びに没頭しているひなぎくグループさんです。園庭で水遊びをしていると、つばめが巣作りのために泥をもらいにきたり、蝶々が水を飲みに来たり、アメンボが水たまりに遊びにきたりと、様々な生き物に出会います。神さまがくださった水をみんなで分け合っていることを感じ、嬉しくなる瞬間です。

### 水遊び・泥あそびが始まりました

今年も水遊び・泥遊びの時期がやってきました。初めて靴下を脱いで園庭に出るひなぎくグループのふたり。足の裏から伝わる慣れない感触に戸惑いながらも、徐々に表情もほぐれ、夢中になって遊びました。

泥を掴み、タンクから流れる水に手をあてるAちゃん。握った手の平から泥がなくなっていく感触をじっくりと何度も何度も楽しんでいるようでした。子どもたちが夢中になって遊んでいるときは、あえて声をかけないようにしています。近くで子どもの動きを真似てみて、どんな世界で遊んでいるのか覗かせてもらうんです。そうすると、泥の感触が楽しいんだな、水が跳ねる動きがおもしろいんだな、水の流れを見ているんだな、と何に关心を向けているのか少しづつ見えてきます。

水や土という素材は本当におもしろくて、遊び方は無限です。ゆっくりこぼす、激しくこぼす、水たまりを優しく踏む、激しく踏む、関わり方次第でどんな姿にも形を変えます。こうしたらどうなるんだろう、もういっかいやってみよう、そんな遊びの繰り返しが、学びの土台となります。子どもたちが十分に自然に触れ、思い切り遊ぶ時間を大切にしていきたいです。

「水は人が生きていく上で欠かせない存在です。子どもは遊びことで環境とのかかわりを広げ深めていきます。ですから子ども時代に生きていく上で必要不可欠な水と、十分に親しむ原体験を保障したいですね。」 げんき No.198 乳幼児の水との出会い より引用

幼稚園に実っているいちごを1つ収穫しました。「1つしかないね。どうしよう? Aちゃんが食べる? Bくんが食べる?」と聞くと、「一緒に」と答えるふたり。「どうやったら一緒に食べられるかな?」と聞くと、「パクッって半分食べてどこぞする?」と教えてくれました。唾がついてしまうので、先生が半分に切ることにして、分けっこして食べましたよ。



初めての登園日から早くも2か月が経ちました。それぞれに好きな遊びも見つけ、安心して過ごしています。5月の半ばから『リズム遊び』を始めました。ピアノの音を聴いて、歩いたり、ジャンプをしたり、身体を動かす遊びです。中でも二人が好きな動きは、走って、ピタッと止まる!の動きです。ヘンテコなポーズで止まるのが楽しいようで、『先生見て、こんなポーズしたよ』と言わんばかりの表情でこちらを見てくれます。その姿がとってもかわいいんです…!

リズム運動は身体の扱い方が上手になるだけでなく、心の安定にも繋がります。これからも楽しく続けていけたらいいなと思っています。



担任 加瀬悠華